

まきどき・植えどき・収穫どき

どきどき情報 9月

野菜の作業

秋～冬期にかけての品目確保と来年の生産に
むけての準備をしましょう！

種まき	定植（植付け）	栽培のポイント
<ul style="list-style-type: none"> ・タマネギ ・ホウレンソウ ・シュンギク ・コマツナ ・ネギ ・地ダイコン ・ラディッシュ ・野沢菜 など 	<ul style="list-style-type: none"> ・ハクサイ ・タアサイ ・チンゲンサイ ・ニンニク ・イチゴ など 	<p>ホウレンソウの特性と栽培 ホウレンソウは、直売所の定番野菜の一つとなっており3月～9月中旬頃まで作付け(は種)が可能です。 ホウレンソウは、代表的な長日植物で、春から夏にかけては特に抽だいしやすくなるので、晩抽性品種の選定が重要です。逆に秋まきは短日、低温期になるため栽培が容易で生産も比較的安定する時期です。</p> <p>また、生育適温もやや低温を好み10 前後まで成育し、0 以下でも枯死しないことから露地栽培でも11月頃まで出荷が可能となります。さらに被覆資材等で保温をすることによりそれ以上に遅くまで出荷が可能となりますので挑戦してみてください。</p> <p>作期別の品種選定は、耐暑性・耐寒性、抽だいの程度、耐病性などを考慮し選定しますが、秋冬期に出荷するものは草姿として立性の強い品種を考慮することも重要となります。</p>
	収 穫	
	<ul style="list-style-type: none"> ・ホウレンソウ ・ブロッコリー ・ピーマン ・キュウリ ・トマト ・カボチャ ・リーフレタス ・サツマイモ など 	

野沢菜の品種と栽培

野沢菜も冷涼な気象条件を好む野菜であり、一般の自家用栽培としては春まきと秋まきに大別されます。春まきは、極端な早まきは避け5月の下旬までとし、秋まきは病害対策も考慮し可能な限り遅まきとし、間引きの徹底などにより短期間に生育させ食味の良いものをつくります。

品種的には、一般には在来種が多いと思われませんが、県の野菜花き試験場では、根こぶ病抵抗性や食味、収量性などに優れた品種を育成していますので参考にしてください。

・「ニューシナノ」（平成8年品種登録）

「野沢菜信濃」の収量性、食味等を改善した品種で、根こぶ抵抗性を有する。在来種に比べ草姿は立性・多収性で、アクが少なく食味良い。初期成育が早いので10%程度の増肥を要する。

また、抽だいが遅いので春まきへの適応性が高い。

・「アントレス」（平成12年品種登録）

アントシアニン色素の発現が少なく漬け汁の濁りがなく加工適正に優れる。草姿は立性で収穫しやすく生育の揃いが良く多収性である。アクが少なく食味も良い。ニューシナノ同様やや多肥での管理を行う。

・「シナノシャッキリナ」（平成18年品種登録）

軟質系でシャキシャキした食感とアクが少ない食味のよい一代交配種。在来の「野沢菜」に比べ生育が早く葉茎長が長く多収性で、草姿が立性で葉色は淡くブルームの発生が少ない。

ダイコンの作型と品種

ダイコンは、古くから必需野菜として親しまれています。一般的に生育適温は20 前後とされ0 以下では凍害を受けることが多く、反面耐暑性もあまり強くないことから寒地では夏まきを中心とした栽培となっています。寒冷地での春まきは5/上～6/上、夏まきは6/下～8/中がは種期で、品種は大病総太り、Y Rくらま、献夏37号などがあります。

そんな中、近年話題となっている地大根は、早まきするとウイルス病が発生しやすくなることや大きくなりすぎることから8月下旬以降のは種が適するとされています。

近年の伝統的な野菜の人気の高まる中、上田にも「山口大根」がありますので、興味のある方はご検討ください。 *ちなみに種は、神科の農産物直売所「食彩館」にありました(8月末時点)。



農業豆知識

《くだものの収穫適期の見極め方》

果物の味のよし悪しは、大変重要で生産者や直売所の評価に大きく影響してしまいますので、味の乗ったおいしい物の出荷に心がけましょう。 収穫始めのときは着色ばかりに気をとられることなく、試食をしたり、糖度計を利用し確認してから始めましょう。

*糖度計は、「あさつゆ」に備えてありますのでお気軽にご利用ください。

【好ましい糖度の目安】

- ・りんご・・・つがる：13度以上、ふじ：16度以上、王林：15度以上、ジョナゴールド：13度以上
- ・ぶどう・・・巨峰：18度以上、ナイヤガラ：15度前後 ・ブルーン・・・スタンレー：13度前後、サンブルーン：18度前後、シュガー：18度前後、プレジデント：15～16度などです。

《長野県で推進しているりんごの新品種（りんご三兄弟）》

長野県では、基幹品種である早生種の「つがる」、晩生種の「ふじ」の間で出荷される次の3品種も基幹品種と位置づけ中生種りんごの栽培を推進しています。

・「シナノスイート」

長野県果樹試験場で「ふじ」に「つがる」を交配して育成した品種で、平成5年に品種登録されています。熟期は中生で試験場での熟期は9月下旬から10月上旬となります。果実は、300～350g程度で、形は円形、赤から濃赤色で縞は鮮明に現れます。

味は甘味が強く酸味少なく、果汁は多く、食味は大変良好（糖度は14%、酸度は0.3%程度）で、貯蔵性は2週間程度あります。

・「シナノゴールド」（黄色の品種）

シナノスイート同様に「ゴールデン・デリシャス」に「秋映」を交配して育成した品種で、平成11年に品種登録されています。熟期も同様に9月下旬から10月上旬となります。

果実は、300g前後、形は円～長円形で、全面が緑黄～黄色になり縞はありません。味は甘味が強く、酸味は中程度、果汁が多く食味は良好（糖度14～15度、酸度0.4～0.5度程度）で、貯蔵性は3週間程度あります。

・「秋映」

中野市の小田切健男氏が「千秋」に「つがる」を交配して育成した品種で、平成5年に品種登録されています。これも熟期は9月下旬から10月上旬となります。果実の大きさは300g程度で果実全面が濃赤～暗赤となり色づきは良好です。甘味は強く酸味は中程度で、果汁多く食味は良好(糖度14～15度程度)で、貯蔵性は3週間程度です。



「シナノスイート」



「シナノゴールド」



水稻収穫適期予測



出穂期以降の平均気温を足し上げる「積算気温」により収穫開始日の予想を行っています。

品 種 名	登熟に要する積算気温	標高	出穂期	収穫開始予想日	備 考
あきたこまち	1,000	700m	8月4日	9月16日～	本年は、場所により生育に差が大きいので「帯緑色籾歩合」等を見て判断することが重要です
コシヒカリ	1,020	500m	8月14日	9月30日～	

刈り遅れは「胴割れ米」の発生を助長します。計画的な収穫ができるようコンバインや乾燥施設の整備は早めに行い、ゆとりある収穫・乾燥調製の計画を立て、品質向上を第一とした作業を行いましょ。

【帯緑色籾歩合による収穫期の判定】

- ・「帯緑色籾歩合」とは緑色の籾が1穂内に占める割合のことです。
- ・1穂内の緑の籾が「10%」になったら収穫開始

あさつゆ連絡先 電話:FAX 41-1062

技術事項作成協力：上小農業改良普及センター
中澤普及指導員 (25-7157)